

CITATION: Kavanagh J, Kelly AJ, Thomas J. *Cochrane Database of Systematic Reviews*  
Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 4. Art. No.: CD003097. DOI:  
10.1002/14651858.CD003097.pub2  
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 16 July 2009  
Clib issue No.; N/U: 2009 Issue 4; Update

## アブストラクト

**背景:** 子宮頸管の開大と展退は、子宮収縮(陣痛)の結果のみならず、子宮頸管における熟化段階にも依存する。子宮頸管は線維性の器官で、主にヒアルロン酸、コラーゲンおよびプロテオグリカン(ムコ多糖たんぱく質)で構成されている。ヒアルロン酸は、分娩開始後に著しく増加する。ヒアルロン酸の濃度が上昇すると、組織内含水量が増加する。分娩中の子宮頸管熟化は、子宮頸管の変化と含水量の増加を特徴とする。子宮頸管へのヒアルロニダーゼ注射は、子宮頸管の熟化を促進すると提唱されている。本レビューは、標準化された方法による子宮頸管熟化と分娩誘発法に関する一連のレビューに含まれている。

**目的:** 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発におけるヒアルロニダーゼの効果を、他の分娩誘発の方法と比較検討すること。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2009年7月)および関連論文の書誌を検索した。

**選択基準:** 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発におけるヒアルロニダーゼに関する臨床試験。

**データ収集と分析:** 分娩誘発に関する膨大で複雑な試験データに対処するために、データ抽出を2段階に分けるなどの対処法を開発した。試験の質を評価した。著者に連絡を取り、その後追加された情報を求めた。試験から有害作用に関する情報を収集した。

**主な結果:** 妊婦168例が参加した1試験についてレビューした。

子宮頸管熟化に関しては、ヒアルロニダーゼの子宮頸管内注射の方がプラセボに比べて、帝王切開に到った妊婦が有意に少なく[18%対49%、相対リスク(RR)0.37、95%信頼区間(CI)0.22~0.61]、オキシトシンによる分娩促進の必要性が低く(10%対47%、RR 0.20、95%CI 0.10~0.41)、24時間後の子宮頸管の成熟度が高かった(60%対98%、RR 0.62、95%CI 0.52~0.74)。本試験では、妊産婦や児における副作用は報告されなかった。

**レビューアの結論:** 子宮頸管熟化目的のヒアルロニダーゼの子宮頸管内注射は有効と考えられる。しかし、一般的な診療ではない。さらに、妊婦にとっては、より侵襲性の低い子宮頸管熟化の方法がある場合に、受け入れられない可能性のある侵襲的な処置である。

## 平易な要約(Plain language summary)

子宮頸管熟化と分娩誘発におけるヒアルロニダーゼ

Copyright © All rights reserved by Minds, Japan Council for Quality Health Care  
ヒアルロニダーゼ(ヒアルロン酸分解酵素)を子宮頸管内に注射すると子宮頸管の成熟度が高まりますが本剤  
が分娩誘発に及ぼす影響ははっきりせず、使用は推奨されていません。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 27日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。